

平成 29 年度3学期終業式講話

校長 岩田 学

今から、25 年ほど前、長野県の高校に専門学科(現在の特色学科)を設立するための準備にイギリスに行きました。目的はロンドン大学で専門の都市社会学を学びながら、パブリックスクールと姉妹校提携を結ぶことでした。休暇を取り、大学での研修を中心にしながら、長野県の高校生が海外語学研修旅行に出られるように準備を進めました。

ロンドン南部、テニスで有名なウインブルドンのステイ先に着いた日、ママは“Your turn to make dinner is on Wednesday and this is your oven.”と私に言いました。その family は友人の Damian、父、母、大学生の妹、そして年上の従兄という5人家族。月曜から木曜の炊飯当番は子供たちと決まっています、私は水曜日の当番に充てられたのでした。金曜のディナーは off、土日はママとパパが腕を振るうというのが定番。朝食はそれぞれ自分に割り当てられた段のガスオーブン、共有の電気トースターを使って用意しました。

新しい生活に最初は少しだけ戸惑いましたが、明確な合理主義がすっかり気に入り、私にとって半年間のロンドンには心から楽しいものでした。ビジネス面でも、ケント州のトンブリッジスクールというパブリックスクールと姉妹校の契約を結ぶことが出来ました。

さて、異国の文化の中で人と触れ合い交渉する時に試されるのは、性別や経歴ではなく、その人が持つ人間としての魅力です。人を惹きつける力のある人を見てみると、皆一様に自分の生き方に自信を持っています。自分の生き方を肯定し、自分と同じように他者の生き方を受け入れる懐の深さこそ、国を問わずコミュニケーションの礎だからです。しかし、ここに「大きなしかし」があります。それは、世界標準のコミュニケーション言語はまず英語、次に中国語だということです。必ずしも日本語のみで自分の生き方に自信を持てる時代ではないのは、皆さんが一番よく感じていることではないでしょうか。

現在検討されている、大学入試改革の1点目は、民間の検定試験(STEP 英検、TOEFL、G-Tech 等)の受験を出願条件の一つにすること、そのスコアをセンター試験の後継テストに加点する事です。4月の高校入学生から完全実施になりますが、現行の大学入試もその準備期間に向かっていますので、皆さんにも少なからず影響があります。是非、前向きに英語検定試験に参加して下さい。

また、各大学は推薦入試中心に、(探究的学びを中心とした)活動報告書の提出、プレゼンテーションの実技などを導入し始めています。また、難関大学の多くは後期日程廃止により、その定員分を推薦入試定員の増加に充てる変更を行っており、今後、地方国公立大学も同じ動きになって行くことが予想されています。昨日実施した、信州大学との連携事業の、生徒会役員による「篠ノ井高校 SIM 研修」は、探究的学びを開拓する第一歩として企画したものです。来年度以降、多くの篠高生が積極的に課題研究(探究的学び)に取り組んでいくことを期待しています。